ベラルーシ公開情報取りまとめ

（11 月 3 日～11 月 9 日）

2020 年 11 月 12 日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●ルカシェンコ大統領、日本、ローマ教皇庁、その他5カ国（ベネズエラ、イラン、北朝鮮、シリア、トルコ）大使から信任状を受領（11/3）

●ルカシェンコ大統領、プーチン露大統領と電話会談（11/4）

●オストロヴェツ原発第一ブロック稼働開始（11/3）

●EU、ルカシェンコを含む計１５名のベラルーシ政府高官に対する制裁導入（11/6）

内政・外交

【ルカシェンコ大統領動静】

●日本、ローマ教皇庁、その他5カ国（ベネズエラ、イラン、北朝鮮、シリア、トルコ）大使から信任状を受領（11/3　大統領公式ホームページ）

●アスタペンコ・駐アルゼンチン（ウルグアイ、チリ、パラグアイ、ペルー兼任）・ベラルーシ大使を解任（11/3 大統領公式ホームページ）

●キルギス国民のベラルーシ滞在・ベラルーシ国民のキルギス滞在に関する政府間協定を承認（11/3 大統領公式ホームページ）

●アルメニアとの再入国に関する政府間協定を承認（11/3 大統領公式ホームページ）

●米国との政府間航空協定を承認（11/3　大統領公式ホームページ）

●プーチン露大統領と電話会談（11/4 大統領公式ホームページ）

両者は、新型コロナウィルス、米国情勢、ベラルーシと隣国との関係、両国内政、翌年の石油・ガス供給に関し協議した。新型コロナウィルス関連では、ベラルーシ国内でのワクチン製造、露ワクチン技術のベラルーシへの移転について協議された。また両者は、ベラルーシ製品の露ウスチルガ港からの輸出や軍事技術協力についても協議した。石油・ガス関連では、ルカシェンコ大統領は、ロシア油田の獲得の可能性について提案し、プーチン露大統領は支持した。またルカシェンコ大統領は、オストロヴェツ原発稼働に関し報告し、感謝の意を表明した。

●新型コロナウィルス対策会議に出席（11/5　大統領公式ホームページ）

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・昨日プーチン露大統領と露ワクチン技術の移転やベラルーシでの製造につき協議し、同大統領から原料を渡してもいいと言質を得た。製造を行おうではないか。自国向けに製造し、他国にも販売しよう。

・これは簡単な製造ではなく、また安くない。誰も、自分の製造を他国に渡すことはない。プーチン露大統領は、友好的原則に基づいて我々に提案してくれたのである。

・保健省が指定した研究センターで検査が行われるようなシステムを構築しよう。いくつかの研究センターでは、1 検査につき 300 ルーブルも徴収していると聞いている。

●ミンスク地下鉄第三線開設式典に参加（11/6　大統領公式ホームページ）

●年金受給額引き上げに関する大統領令に署名（11/6 大統領公式ホームページ）

同令により、2020 年 12 月 1 日より労働年金受給額が平均 5.4%引き上げられる。

●オストロヴェツ原発視察（11/7 大統領公式ホームページ）

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り

・この原発の稼働は、ベラルーシにとって歴史的な出来事である。ベラルーシは核大国となった。同原発は、未来への、そして、国家のエネルギー安全保障への新たな一歩である。（11/7 国営ベルタ通信）

・リトアニアやポーランドの首脳には、対立的なレトリックを止め、対話に戻ることを要請する。我々の国民は、かつて一つの国家の下、暮らしていた。あなた方が間違っていたと理解してくれるのなら、それで良い。あなた方はあなた方の畑で、我々は我々の畑で従事しよう。エネルギーを生産し、それを販売し、交換しよう。まっとうに暮らそう。我々は隣人であり、隣人は選べないのだ。（11/7 Tut.by 通信）

【外交】

●リトアニア、ベラルーシにオストロヴェツ原発稼働抗議の口上書を送付（11/4 ベラパン通信）

●マケイ外務大臣、駐ベラルーシ・ローマ教皇大使と会談（11/5 ベラパン通信）

●欧州安全保障協力機構（OSCE）、モスクワメカニズムの枠組における報告で、ベラルーシ政府に対し72の勧告を提示（11/5 ベラパン通信）

同報告内には、「今般のベラルーシ大統領選挙は、明らかな欠点があり、前回選挙の監視に基づいた基本的な要求を満たしていなかった。深刻な人権侵害は、大規模かつ体系的であり、反駁できないほど証拠が十分にある。」と記載されている。

●英国、ベラルーシ政府へ選挙再実施を要請（11/5 ベラパン通信）

●ゴロフチェンコ首相、ミシュスチン露首相と電話会談（11/6　国営ベルタ通信）

両者は、貿易経済分野、エネルギー分野、物流分野における協力や、露ワクチンの研究状況に関する情報交換を行った。

●ゴロフチェンコ首相、CIS 首脳会議に出席（11/6 国営ベルタ通信）

ゴロフチェンコ首相の発言要旨は以下の通り。

・2030年までの原子力分野における CIS 各国の協力枠組の検討、同協力の第一段階の実施に向けた各種行事の計画は極めて差し迫った課題である。今日、ベラルーシは、ロシアのパートナーとともにオストロヴェツ原発第一ブロックの稼働に向けた準備をしている。

・我々にとって、原発建設は、長期的、安定的な発展と経済主権の強化にとって非常に生産的なプロジェクトである。

・ベラルーシは、チェルノブイリ原発事故の被害国であり、今回の原発建設の決定は綿密な検査を経て採択された。原子力国家プログラムの発展に関する全ての観点が細かく分析され、同プロジェクト開始当初から、ベラルーシは、開放的に、かつ責任を持って、原発の安全性確保に向け必要なことを行なってきたし、今後も行なっていく予定である。

●EU、ルカシェンコ大統領を含め、その他政府高官、計15名に対し制裁導入（11/6 ベラパン通信）

同措置によりEU制裁の対象となるベラルーシ政府高官は計59名となった。

●カナダ、EU の制裁対象拡張に呼応する形で、新たに13名のベラルーシ政府高官に対する制裁を決定（11/6 ベラパン通信）

●ベラルーシ外務省、在ベラルーシ英国大使館員 2 名にペルソナ・ノン・グラータを通告（11/9 国営テレビ放送局 ONT）

11 月 9 日、国営テレビ放送局 ONT は、英国大使館員 2 名に対するペルソナ・ノン・グラータに関し、グラスグラス外務省報道官の次の発言を放映した。

「11 月 8 日、ベラルーシ外務省は、外交官の地位及びベラルーシ滞在目的と相容れない活動を考慮し、

在ベラルーシ英国大使館員2名に対するペルソナ・ノン・グラータの通告を決定した。この決定はやむを得ないものであり、ベラルーシ側により確認された破壊工作を考慮し行われた。」

【経済】

●ベラルーシスタートアップの 70%以上が、政治経済危機によるネガティブな影響を受けている。(11/3 ベラパン通信)

●オストロヴェツ原発第一ブロック稼働開始(11/3 ベラパン通信)

同ブロックの産業用稼働は 2021 年 2 月末に予定されている。

●ウクライナ、2021 年にオストロヴェツ原発産の電力を購入する予定なしと公表。(11/5 ベラパン通信)

●ベラルーシ政府高官、テレビ形式による中国国際輸入博覧会開会式に出席(11 月 5 日 国営ベルタ通信)

●2020 年 10 月、ベラルーシ金準備高、1 億 64 百万ドルの増加。(11/7 ベラパン通信)

【内政】

●コチャノヴァ上院議長、学生団体と会談。(11/3 ベラパン通信)

コチャノヴァ上院議長の発言要旨は以下の通り。

・平和的抗議運動における治安部隊の暴力は許されないが、「平和的」と言いながら違法行為が行われていた。治安部隊やその家族への侮辱行為が行われている。彼らも人である。

・逮捕後の性的暴行について、あなた方はインターネットで読んだことは全て嘘であり、性的暴行はなかった。大統領は、本事案を耳にした際、「厳に解明するように」と述べた。私は、保健大臣や同省次官、カラニク前大臣と個別に話したが、そんな事案はなかった。もし私を信じないのであれば、次回は保健大臣をこの場に呼ぼう。

・抗議運動参加に伴う行政罰による授業欠席は正当な欠席にならないという件について、教育省の正式な指針を知らないが、非許可の集会への参加は違法行為であり、上記方針は正しいと考える。

・ベラルーシ経済は旧ソ連域内で最良である。あなた方は選挙を不正と言っているが、私は、正当であったと考える。

●直近数ヶ月で、約 3800 名がリトアニアへの移住に関する問い合わせを実施している。(11/3 ベラパン通信)

●カザケーヴィチ内務省次官、ミンスク国立言語大学で学生団体と会談。(11/6 ベラパン通信)

同次官の発言要旨は以下の通り。

・ルカシェンコ大統領は、合法的に選出された。治安部隊の行為は正しいものであった。

・タライコフスキ氏の死の真相は、直にわかるであろう。

●ミンスク市内で医師による抗議運動が発生。約 60 名が拘束される。(11/8 ベラパン通信)

●8日、ミンスク市内で抗議運動「国民主権の行進」が発生(11/9 ベラパン通信)

・9日早朝時点での国内全土の拘束者数は、1023名(人権センターによる集計)~1250名(ボランティア団体による集計)とされている。

・ベラルーシ記者協会によれば、マスコミ関係者8名が拘束され、その後5名が釈放された。

・拘束された市民の中には、2008年ミスベラルーシに選ばれたヒジニコヴァ氏、北京五輪十種競技銀メダリストのクラフチェンコ氏、俳優のジダノーヴィチ氏等、著名人もいた。

【抗議側の動き】

●チハノフスカヤ元候補、オーストリア・クルツ首相と会談し、ベラルーシの政治・経済的危機の平和的解

決と同プロセスにおけるオーストリアの役割について協議した。（11/4 ベラパン通信）

●調整評議会幹部会メンバーのラトゥシュコ氏（元文化大臣、元駐仏大使）、ベラルーシ情勢に関するOSCE 報告について発言（11/5 ベラパン通信）

ラトゥシュコ氏の発言要旨は以下の通り。

・同報告に記載されている証拠とともに、国家危機対応局は、他国外務省や大使館へ、現政権と如何なる協力をもしないように呼びかけた。

・同報告は、ルカシェンコ氏を大統領と認めないこと、選挙改ざんの証拠を認めること、新たな正当な選挙実施に関する国民の要求が根拠あることであると確認している。

●チハノフスカヤ元候補、OSCE 報告について発言（11/6）

チハノフスカヤ候補の発言要旨は以下の通り。

・同報告は、ベラルーシにおける政治危機解決や治安部隊による平和的市民に対する暴力行為の取り調べの開始を促すものである。

●チハノフスカヤ元候補、バイデン米大統領候補に祝電。（11/6　ベラパン通信）

チハノフスカヤ候補の発言要旨は以下の通り。

・近い将来米国新大統領が自由なベラルーシにおける真に選ばれた大統領と会談すると信じている。

（了）